



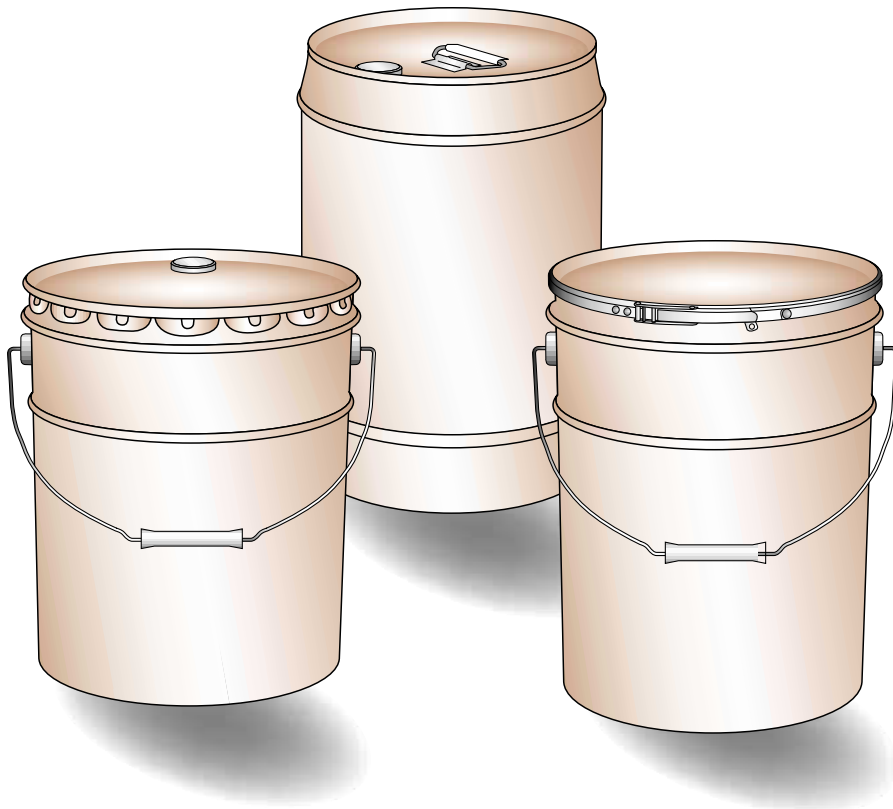
鋼製ペール

(JIS Z1620)

取扱上の注意

ここに述べている注意事項は、
鋼製ペール(以下、ペールという)を正しくお使い頂き、
充てん内容物の保護と取扱う人々への危害や損害を
未然に防止するためのものです。

なお、ここでは内容物運搬用に使用される、JIS Z1620「鋼製ペール」に該当する
ペール、及びこれと同一内径で板厚・容量(高さ)のみが異なるペールを対象としています。



ドラム缶工業会

鋼製ペール(JIS Z1620)

1. 基本的要件

- (1) 内容物の性状に適したペールをお選びください。
 - ・天板の取付け状態や形状によるタイプ
 - ・内面塗装の有無・種類
 - ・パッキンの種類
 - ・口金の種類など。
- (2) 内容物が危険物に指定されている場合、法規制に適合したペールをご使用ください。
 - ・危険等級、55 における蒸気圧、比重
 - ・運搬手段…陸上(国内)/海上/航空の別など。
- (3) 新規の内容物を充てんされる場合、その腐食性やパッキンへの浸食性などにご配慮の上、ペールメーカーにご相談ください。また、従来品であっても、添加物の種類・量など軽微な変更によって腐食性が大きく変化する場合がありますので、ご注意ください。
- (4) 外面の仕上げニスやハンドリング用部位など内容物に影響しない部材については、改良を目的に事前の予告なしに変更することがあります。
- (5) 本来の目的以外には使用しないでください。

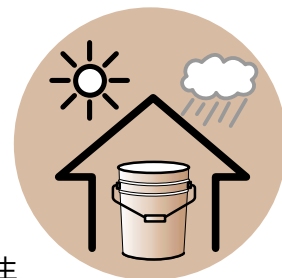
例えば

 - ・踏み台にしないでください。転倒するおそれがあります。
 - ・内圧をかけないでください。破裂することがあります。
- (6) 床面を引きずらない搬送手段をとってください。また、落下や突起物への衝撃などの防止にも留意してお使いください。使用している鋼板が薄いので、摩滅や突起物による切断などによって漏洩するおそれがあります。
- (7) ペールは、1人で持ち運び可能な構造となっています。労働安全上過重な質量とならないようにご配慮の上ご使用ください。

2. 空缶の保管

- (1) ペールは必ず屋内に保管してください。

屋外保管は雨水等によるさび発生の原因になります。また、口金から缶内部に雨水が侵入するおそれもあります。
- (2) 屋内であっても
 - ・湿気の多い場所には保管しないでください。
 - ・大きな寒暖差の生じる場所には保管しないでください。結露によるさび発生の原因になります。また、結露水が缶内に浸入するおそれがあります。
 - ・直射日光の当たる場所には保管しないでください。外面の塗装・印刷色の変色するおそれがあります。
- (3) 保管したペールは、できるだけ早期にご使用ください。防錆上、内面生地缶(非塗装缶)には特にご注意ください。



3. 充てん時及び充てん後の取扱い

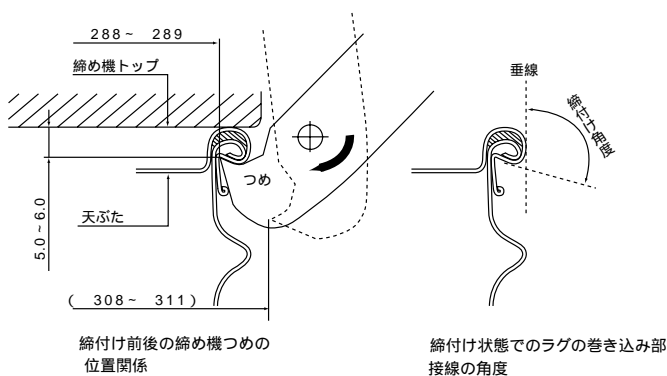
- (1) 缶体やふた、バンド、キャップ、封印などの端部で手を切るおそれがありますので、ペール取扱いの際には必ず保護手袋を使用してください。
- (2) 重ねたペールを充てんラインに搬入する場合、缶内面への接触キズを防ぐため、缶はできるだけ垂直に抜き取ってください。
- (3) 充てん量は、内容物に応じた適切な空隙を確保するようご注意ください。消防法では危険物の場合の容器内容積に対する収納率を
 - ・液体では 98% 以下
 - ・固体では 95% 以下と規定しています。



- (4) ふたや口金キャップは漏洩を防ぐため正しくセットし締付けてください。

天ぶたは胴体の開口部に水平にセットし、片締めにならず均一に締め付けられるように、締め機を適切に保持してください。

下図は、ラグ式天ぶたの締め付け管理ポイントを示したものです。この場合、締め機の構造及び缶の仕様、すなわち、板厚、パッキンの材質・形状・寸法・装着方法などの違いによって締め付け角度(締め付け力)が多少異なりますので、これらを勘案してペール缶メーカーが推奨するそれぞれに適した基準によって締め付けてください。



- ・口金キャップの締め付けには専用の締め機を使用し、片締めのないようにご注意ください。
- ・ドラム用口金のプラグの場合、専用の器具を使用して適切なトルクで締め付けてください。

- (5) 内容物が容器外部や嵌合部に付着した場合、拭き取ってからふたやキャップ類を締めてください。液体の場合、付着したままでふたやキャップを閉めると、誘引により漏れが発生する場合があります。また、内容物により塗装の剥離や印刷の文字やマーク等が消えることがあります。

- (6) 高温の内容物を充てんした場合、できるだけ常温に下ってからふた閉め又はキャップ閉めを行ってください。

充てん後直ぐに密封しますと、バキューム現象によって、缶が変形したり、外気水分を吸入するおそれがあります。

- (7) 充てん後の荷扱いでは、特に天締め部・口金部の変形・破損にご注意ください。漏洩の原因になります。
- (8) つる又は手環は、グリップ部を正しく持ち、できるだけ垂直に持ち上げてください。また、つる又は手環を600N(約60kgf)を超える荷重では引張らないでください。

- (9) パレット等への積載時にはつる取り付け部が隣の缶のつるや取り付け耳(イヤー)に当たらないように注意してください。つるによる胴の穴あきやイヤーはずれの原因になります。

- (10) 内容物を充てんしたペールは、必ず屋内に保管してください。屋外に保管すると天板に雨水等がたまり、口金から浸水するおそれがあります。また、発錆することがあり、外塗装膜が劣化し、膨れや剥離、変色が発生することもあります。

- (11) 屋内であっても、直射日光が当たる場所に長時間放置しますと内圧上昇で容器が膨張し、変形する場合がありますのでご注意ください。

- (12) 使用済みペールを廃棄する時は内容物を取り除いた後、関連法令(廃棄物処理法等)に従って処理してください。



<http://www.jsda.gr.jp>



ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 (鉄鋼会館6階)

TEL. 03-3669-5141 FAX. 03-3669-2969

e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

ペールメーカー会員会社

株式会社ジャパンペール

新邦工業株式会社

株式会社長尾製缶所

株式会社前田製作所
